



学校通信

令和2年10月2日
東京都立葛飾盲学校長
田島 忍
(第6号)

「思い」は力となり

主幹教諭 藤波 暁

「みんなのために」、「みんなで楽しめるように」、今、中学部には、このような純粋で熱い気持ちをもった生徒がたくさんいます。現在、全校に向けて生徒たちが懸命に取り組んでいる2つの「思い」について紹介します。

1つは、「給食のメニューを全校のみなさんに伝える」という活動です。以前は専用の音声機械が食堂前に設置され、メニューが読み上げられていました。しかし、9月からは、中学部放送委員会の生徒たちが、その日のメニューについて事前に録音し、その音源をみなさんに聴いてもらうようになりました。食材の紹介や栄養・健康を気遣うメッセージもあり、優しい語りかけが心地よく、温かい気持ちで食事ができるようになりました。感染症対策のため、楽しい会話が消えてしまった給食の時間ですが、毎日、流れている「思いがこもった言葉」を楽しみに、食堂に向かう人が着実に増えています。

もう1つは、中学部生徒会役員が中心となって、生徒会主催の「全校交流会」を企画し準備していることです。今年度、残念なことに全校が集まる機会は未だにありません。「みんなで楽しむ」という強い思いが、生徒たちを動かしています。感染症対策を考えた交流の方法を何度も話し合い、アイデアを出し、形にしていく姿は、それだけでも尊いものだと感じました。10月13日に行われるこの交流会は、生徒による手作りの会です。その思いはきっと全校に届き、たくさんの笑顔を生み出すことでしょう。

「2学期」という時間は本来、宿泊行事や全校行事、校外での学習など、貴重な経験ができる季節であり、そして、そこでの体験を通して一人一人が大きな飛躍を遂げる大切な時間であると常々思っています。しかし、今年度は、新しい学校生活を受け入れ、地道に歩み続けることが求められています。日々、時間割通りの学習に取り組み、刺激も少なく時が過ぎていく、このような現実を夢であってほしいと思っただけでもあります。しかし、生徒たちは今、自分たちの力で学校生活を充実させています。熱い思いで何かを成し遂げたとき、何にも勝る大きな力となることを信じています。生徒たちの活躍をしっかりと受け止め、懸命に応援していきたい、それが、我々の「思い」です。

『東京』と言われて、みなさんは何をイメージするでしょうか。先日、中学部では、総合的な学習の時間に『東京を知ろう』というテーマで発表会を行いました。調べ学習に取り組んだ生徒のみなさんは、「江戸切子」、「水元公園」、「三鷹の森ジブリ美術館」など、一人一人が「東京」という大きなテーマから自分のテーマを決め、学習の成果を発表しました。

また、「ブルーベリー染めのうちわ作り」に挑戦した生徒のみなさんは、力作を披露し、全国生産量第一位、国内発祥の地である東京について、「ブルーベリー」を通して体験的に学びました。(中学部：小原)

